

## 平成 29 年度血液製剤使用適正化推進委員会 会議録

### 1 日時

平成29年11月20日(月) 午後1時30分～午後2時40分

### 2 場所

盛岡地区合同庁舎 8 階講堂A

### 3 出席者

#### (1) 委員

遠藤秀彦委員、諏訪部章委員、中居賢司委員、望月泉委員

(欠席委員：菅原健委員、杉山徹委員、鈴木健二委員、宮入泰郎委員)

#### (2) 事務局

保健福祉部健康国保課総括課長 藤原寿之、薬務担当課長 大坊真紀子、主任主査 田村剛、技師 藤村哲雄

岩手県赤十字血液センター事業部長 鈴木洋一、供給課長 貴田貢、学術・品質情報課長 長岡芳男

### 4 開会

事務局から開会を宣言した。

### 5 あいさつ (藤原総括課長)

### 6 議題

#### (1) 報告

ア 県内における血液製剤の供給状況について (資料 1 - 1)

イ 平成28年度、平成29年度4月～9月血液事業の概要について (資料 1 - 2)

(健康国保課及び血液センターから、ア・イを一括説明)

[質疑応答]

(委員)：資料 1 - 1 の 3 頁・4 頁の献血者の現状についてであるが、28 年度は成分献血が前年度より多く全血献血が前年度より少なかったが、29 年度上半期はこれが逆の状況になっている。何か理由があるのか。

(血液センター)：血小板については 4 日しか保存できないということもあるので、廃棄を少なくするために直近の需要量を見越してリアルタイムで調整している結果である。

#### (2) 協議

ア 平成30年度の血液製剤需要量見込について (資料 2)

イ 血液製剤使用適正化の推進について (資料 3)

(健康国保課からア・イを一括説明)

[質疑応答]

(委員)：資料 2 で「4 月～8 月の実績」となっているが、9 月分は入らなかったのか。

(血液センター) 血液センター貴田供給課長) 資料2だけは8月までとしている。ほかはすべて上半期の実績としている。

(委員) 合同輸血療法委員会は誰を対象としているのか。輸血医療を担当している医療関係者か、住民か。

(健康国保課) 医療関係者を対象としている。

(委員) 当院ではこの合同輸血療法委員会が開催されることについて院内に周知されていない。

(健康国保課) 委員になっている方(医師等)あてに案内文書を出している。今年度は臨床検査技師や看護師等の参加申込をいただいている。

(委員) 若い医師を対象とした方がよいのではないか。

(委員) 啓発というのは、委員会の医師等に対する啓発なのか。

(委員) 病院長あてに案内文書を出して、病院全体に周知してもらい研修医等にも参加してもらうようにした方がよい。案内文書が来ていることを自分は知らなかった。委員会の委員以外の人でも対象とするのであれば周知の仕方考えた方がよい。

(委員) 合同輸血療法委員会はネットワーク作りを主な目的としているが、研修会の周知方法については工夫することとしたい。

(健康国保課) 来年度からは案内方法を改善することとしたい。

(委員) 毎年度開催しているようだが、参加者は何人くらいいるのか。

(健康国保課) 90人程度である。

(委員) 看護師が参加してくれると人数は多くなる。

(委員) 県から、合同輸血療法委員会の概要を説明してほしい。

(健康国保課) 合同輸血療法委員会は、当時の血液センター所長から県に設置の要望があり、県と血液センターが事務局となり平成23年度に設置した。血液製剤を多く使用している県内28医療機関から委員を出してもらっており、県立病院はほとんど全病院、ほか岩手医大、赤十字病院など民間の病院が加入している。年間事業としては、アンケートの実施と委員会での結果の周知、研修会の開催を行っている。

(委員) 良いことだと思う。血液製剤の適正使用を医師にも啓発してほしい。職種別の参加者はわかるか。医師はあまり参加していないのか。

(委員) 輸血に関わる医師も委員になっているので医師の参加者もいるが、人数は少ない。

(委員) 気軽にFFPをオーダーしたりアルブミンを栄養補給に使ったりする医師がまだいる。もちろん病院でも医師の教育はしているが、こういった研修でも啓発してもらえれば良い。ポスターを作成したりするのは費用がかかるのか。データで送ってもらえれば、印刷して院内掲示する。

(委員長) 次回からは、合同輸血療法委員会の案内は委員あてと院長あての両方施行するようお願いする。研修医のガイダンスについては、カリキュラムに空きがないということでやむを得ないか。

(委員) カリキュラムが決定してからだと変更は難しいが、決定前なら交渉可能ではないか。

(委員) 保健福祉部が所管しているはずだ。要望してみる必要がある。

(委員) 血液製剤適正化は医学生に話してもピンとこないかもしれない。研修医の方が必要だと思う。

- (委員) 春の研修医のガイダンスで血液製剤使用適正化の資料を配布できるようにお願いしたい。  
血液センターでは、検診をお願いしている医師には、血液製剤使用指針の資料を配布している。岩手医大の学生に資料を配布しても、卒業後は半数が県外に出て行ってしまうので、効果を考えれば研修医に資料配布した方がよい。
- (委員) 確かに研修医ガイダンスはカリキュラムがタイトで余裕がなく、むしろ何かを削りたい方かもしれない。  
各病院では臨床研修医のオリエンテーションを実施しているが、そのときに説明するということは可能ではないか。血液センターでは各病院を回って説明などしているのか。
- (委員) 研修医委員会には出席している。血液センターから血液製剤使用適正化の話をするのは難しい面がある。検診医研修では献血の検診をして採血現場を見てもらい、血液製剤使用指針の資料を配布して、病院で血液製剤を使用するときに参考にするように話をしている。
- (委員) 合同輸血療法委員会でも、適正化に向けた研修医に向けた講習会のようなものができればよいのかもしれない。
- (委員) 合同輸血療法委員会で毎年度厚生労働省に科研費の応募をしており、今年度は、地域医療の中で血液製剤適正使用に向けた取組に関して応募したが、この場で県から概要を説明してほしい。
- (健康国保課) 厚生労働省の科研費というものがあり、合同輸血療法委員会でやりたい事業を応募し、全国で 10 県程度採択され補助金が交付されている。今年度は、中居先生に原稿作成していただき、輸血医療に関わる医療従事者のネットワーク構築という内容で応募したが、残念ながら採択には至らなかった。
- (委員) 過去に採択された都道府県の例をみると、血液製剤適正使用に関する事業はあまりない。  
来年度は研修医への血液製剤使用適正化の啓発について応募してはみてはどうか。
- (委員) そうですね。
- (委員) 保険医の研修というのもあるが、あまり出席率は良くないようだ。東北厚生局の主催だが、そこに血液製剤使用適正化についての内容をいれてもらおう、ということも考えられる。
- (委員) 科研費は岩手県だけが過去 10 年採択されていないので、今後採択される確率は高いのではないか。科研費に採択されれば補助金が交付される。来年度は、研修医を対象とした血液製剤適正化の啓発事業で応募することも一案である。
- (委員長) 資料 3-3 についてはいかがか。今回アルブミン製剤の販売量が減少しているが、岩手医大でかなり使用を削減した。
- (委員) 血液製剤の使用が診療報酬で不適切として査定されている率等のデータはあるか。
- (健康国保課) そのようなデータは持っていない。
- (委員) 資料 1-1 に戻って 3 頁・4 頁の献血者の現状についてであるが、28 年度は成分献血が前年度より多く全血献血が前年度より少なかったが、29 年度上半期はこれが逆の状況になっている。何か努力をしたとか理由があるのか。
- (委員) 血小板については 4 日しか保存できないということもあるので、努力というよりは、廃棄を少なくするために直近の需要量を見越してリアルタイムで調整している結果である。
- (血液センター) 東北全体の血小板の使用量は昨年度に比べて少なくなっているのので、血小板成分の採血は少なくなっており、その分血漿成分の採血に回っている。
- (委員長) ほかによろしいか。(なし)  
それでは、協議事項については了承いただいたということで、研修医への啓発や合同輸

血療法委員会の通知の出し方などご意見いただいた分についてはよろしく申し上げます。

(3) その他

(委員長) その他、何かありますか。

(健康国保課) 委員の任期が 12 月 7 日までとなっており、委員の皆様には 2 回の委員会でいろいろご審議いただきありがとうございました。要綱上、血液製剤使用の主要な機関等から委員を委嘱することとなっているので、また所属あてに推薦依頼の文書を出させていただくので、引き続きよろしく申し上げます。

(委員長) 恒常的な欠席委員もいるので、次回以降は出席できる委員の推薦をお願いしたい。

7 閉会